

福島県の地域材を使った木製品を開発

現代の様式に合う伝統技術のクラフト

伊達クラフトデザインセンター

白井 貴光さん



福島県伊達市を拠点とし、地域産出の国産木材の有効利用を目指す有限責任事業組合のDC2（伊達クラフトデザインセンター）。DC2では数人の木工業者がメンバーとなって様々な木工品を開発し、ブランド化に乗り出している。日本の伝統技術である木工を活かし、現代の様式や生活に適合させた木製品を提供していく中から、環境保全と国産材活用の意義についてDC2のメンバーであり、(有)白井木工所代表取締役の白井貴光氏に話を聞いた。

原点は木工業界の勉強会

―まず、DC2発足の経緯について教えてください。

白井 何と言っても「グリーンサーキット」の活動が出发点でした。私も東日本大震災の影響を受けて、その後関係者の皆様から声をかけていただき、会社の方から私が木工関係者の勉強会である「グリーンサーキット」に参加させていただくことになりました。私の事業所は福島県伊達市にありますが、被災地の状況を改善しようと活動していくうち、塾長役である東京大学の安藤直人先生や勉強会のメンバーと相談した結果、木材を地域の発展に使うアイデアが出てきました。平成24年に東京で開催された「国際木工機械見本市・グリーン産業展」にも出展し、メンバーで様々な木工製品を提案する中で、皆の力を合わせれば色々なことができることが判明し、安藤先生に名前を考えていただき「伊達クラフトデザインセンター」の名をつけて活動を開始しました。

―メンバーと活動するに当たり、まず始めたことは何だったでしょうか。

白井 地域で産出される木材を使って何をするのかの提案書を作り、福島県や伊達市といった